



よあけ

ユリー・シュルヴィッツ 作・画

瀬田 貞二 訳

福音館書店 1977年 1260円

32ページ 24×26cm

夜ふけの湖のほとり。そこは、音もなく静まりかえって、寒くしめっている。木の下に、おじいさんと孫が寝ている。月だけが照り、動くもののない世界に、ふと、そよかぜが吹き、さざなみが立つ。もやが立ちこめてくる。こうもり、かえる、そして鳥のこえ。周囲はめざめをむかえる。おじいさんが孫を起こす。2人は食事をし、湖へボートをこぎ出す。そのとき、太陽がのぼり、あたりは日の光をうけ、いっきにみどりにかがやく。夜陰の重い彩りからはじまるのですが、明けそめていくうつろいがみごとに描かれ、最後に鮮やかな色彩の日の出を迎えます。自然の雄大さ、美しさが深く心にのこる絵本です。



ラチとらいおん



マレーク・ペロニカ ぶん・え

とくなが やすもと やく

福音館書店 1965年 1050円

44ページ 16×23cm

ラチは世界中で1番弱虫な男の子。犬も暗闇も、友達さえ怖くて、1人ぼっちですごしています。ある朝、ラチの前に小さな赤いらいおんが現れました。「つよくなりたいたら、ぼくがつよくしてやるよ」2人は毎朝体操をしました。らいおんが側にいるとラチも勇気が出て、怖かった犬や暗闇を次々と克服していきます。すっかりたくましくなったラチは、困っている友達を助けることもできました。そしてその時、らいおんはラチのもとをそっと去っていきました。健康な体をつくり、勇気を持って行動できるよう見守り、促す。そしてそっと離れる。子育てと子離れに悩む大人たちにとっても、らいおんは心強いお手本かもしれません。